母校の思い出

山城4回　吉田義男

京三中山城高、開校百年心からおめでとうございます。この記念すべき二〇〇六年、卒業生の一人として私自身開校記念誌に寄稿できる事、無上の喜びでございます。終戦後の混乱期に学制改革で山城に編入学し、山城高校で学んだ数々の想い出が走馬灯のように浮かばれます。

山城高野球部に入部し勉強は勿論のこと、一心不乱に野球に打ち込んだこと、昭和二十五年（一九五〇）甲子園に初出場し、夢が叶った青春の想い出として鮮明に身体に刻み込まれています。

幸か不幸か野球が職業となり、今尚野球の仕事に携われる幸せな野球人生を送っています。プロ野球一筋の野球人生半世紀、種々の体験をしました。

監督時代、選手時代、栄光を勝ち得た時、辛苦を嘗めた時、その時々に山城高校の同窓生同級生が時には祝福してくれ、叱

咤激励して頂いたこと、同窓の諸氏のぬくもり・暖かみが身体に刻み込まれています。改めてご声援有難うございました。

長い野球人生の中で、晩年フランスの野球と関わった七年間（一九八九～一九九五）七シーズンオリンピック出場の夢を果たすことは出来なかったが、パリで暮らした際、夏の高校野球の予選で母校山城の成績と山城高の活字をみて一喜一憂したことを想い出します。卒業生は同じ気持ちではないでしょうか。今日に至るまで私にとりましては山城高校は誇りです。母校山城高校の永遠の発展を祈ります。